

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 6 月 17 日現在

機関番号：32645

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2016～2019

課題番号：16H05208

研究課題名（和文）わが国の医学部における入学者選抜の妥当性と改善策に関する総合的国際共同研究

研究課題名（英文）A comprehensive international joint research project on validity and improvement strategy of medical school admissions in Japan

研究代表者

大滝 純司（Junji, Otaki）

東京医科大学・医学部・兼任教授

研究者番号：20176910

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,500,000円

研究成果の概要（和文）：大規模意識調査では、医学部入試への不公平感が見られ、経済力があり受験に適した環境に生まれ育った者が医学部に入学しやすいと考える人が多く、望ましい資質として精神力、思いやり、共感力などが重視されていた。地域枠制度の認知率は、全体で約1割、医療従事者・医療系学生で約3割だった。進学校（高校）の進路指導担当教員を対象とした過去の調査結果の追加分析からは、医学部入試における地域間の格差や居住する都市規模による違い、私立高校と公立高校の間の差異が明らかになった。大学入試に関するマスメディア記事の調査からは、2004年以降に医学部入試の記事が増え、その主な内容は出身高校別の合格者数であった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

わが国全体にわたる規模で医学部入試の妥当性について検討した研究は少なく、今後の医学部入試のあり方を検討する根拠として期待できる成果である。国の高齢化に伴い医療の需要は増しているが若年者は減り、少ない若年者からこれまでと同等以上の数と質の医師を養成する必要がある。特定の環境にある者が受験に有利であるならば、それに該当しない若者は早い段階で医学科進学をあきらめかねない。日本以外でも多くの国々が同様の課題を抱えており、他国の格差是正政策やその結果を参考にし、医学部入学後の学習に必要な学力は担保しながら入試の門戸を広げ、より幅広い資質や背景を持つ人々に医学部志望を促すことが重要だろう。

研究成果の概要（英文）：In a large-scale awareness survey, there was a sense of unfairness in the entrance examination for medical school, and many people thought that those who were born and raised in an environment with financial strength are suitable for the examination and easy to enter the medical school. Mental strength, compassion and empathy were emphasized as qualities. The recognition rate of the regional quota system was about 10% overall, and about 30% for medical professionals and medical students.

An additional analysis of the results of past surveys of teachers in charge of career guidance at high schools reveals regional disparities in medical school entrance exams, depending on the area and size of the city they live, and differences between private and public high schools. According to a survey of mass media articles on university entrance exams, the articles on medical school entrance exams have increased since 2004, and the main content was the number of successful applicants by high school.

研究分野：医学教育

キーワード：医学教育 大学入試 専門家養成 選抜試験 国際比較 教育格差

## 1. 研究開始当初の背景

医学部・医科大学の医学科における入学試験(以下、医学部入試)は他の学部・学科とは異なり、入学者の大半が将来医師になる点で特殊であり、社会に与える影響は大きい。国内での医学部入試に関する報告や研究論文は、入試の形式などを全国調査してまとめたものや、個別の大学の入試の内容と効果に関する記述的な内容である。国全体や多施設で評価方法や合格基準の妥当性を検証したものはなく、医学部入試のあり方を検討する根拠として利用できる資料は少ない。

我が国の医学部入試の際立つ特徴である熾烈な受験競争については、マスコミによる報道や受験産業からの情報が流布しているものの、その全体像を俯瞰し、建設的に批判するための基礎資料を得ることすら困難である。少子化にもかかわらず医学部入試のみが突出して激化する背景には、多くの職業で就業形態が変化し雇用が不安定になる中で、医師という職業が比較的安定した専門職と見なされているのが一因と指摘されている。

社会格差や教育格差の固定化が社会問題として指摘され、医師養成においても、医学部入試の激化により、有名進学校出身者、予備校で受験対策を受けた者が医学部入学者の多くを占めている。その結果、個人主義に基づく進路選択をする医師が増え、社会資源としての医師の養成で問題になっている「三つの偏在」、つまり医師の「地域」「診療科」「医療機関」間の偏在が、深刻になることが懸念される。この課題は海外でも指摘され始めている。一方、医師不足の地域出身の志願者を医学部・医科大学に多く入学させる、いわゆる「地域枠」が政策的に導入されるなど、医学部入試に関する要求や介入が顕在化しつつある。

研究代表者の大滝は、臨床医として僻地など多様な臨床現場で診療するとともに、海外を含む6校の医学部で教員として教育や入試に携わった経験と、医学教育に関する研究活動を通して、日本の医学部入試が、有名進学校や予備校で学ぶことができる環境にいる者でなければ合格が困難になっている現状に疑問を抱いた。その疑問を research question として、平成24～27年度に科研費の助成を受け、医学部入試について研究を展開し社会格差や教育格差が医師養成や医療に影響している実態の一端を明らかにしてきた。

## 2. 研究の目的

日本の医学部入試の妥当性を国際比較も含め学際的に検討し、幅広い情報収集と意見交換を促進し、今後進むべき方向を探る。これらの活動と成果物により我が国の医師養成システムの競争力を高め、海外へも発信する。

## 3. 研究の方法

### (1) 研究打合せ

2016-2018年度はおおむね月1回の頻度で、その後は年に数回程度の研究打合せの会合を、研究代表者、研究分担者、研究協力者が参加して開催し議論した。会合の一部あるいは全体でインターネットを利用して(Skype)行った。

### (2) 資料の検索・収集と分析

研究機関を通して、医学部入試に関する新たな資料の検索と収集を継続的に行うとともに、それらを分析し、研究代表者と研究分担者間で情報交換を行った。

### (3) 調査研究および国際シンポジウムの再検討

当初の計画よりも補助金が減額されていることを踏まえて、計画の見直しをおこなった。研究代表者と研究分担者で議論した結果、当初の計画に含まれていた予備調査や一次調査の内容および国際シンポジウムの開催は実施しないこととした。それらに代わる研究として、マスメディア記事の調査、各種の報告書や論文、海外の訪問調査などにより関連の資料や情報を収集し、それらをもとに最終年度に一般住民を対象とした大規模な調査を行う計画の検討を進めた。

### (4) 大規模調査

上述の大規模調査研究に向けて、その質問項目を作成し、試験的に使用した後に見直しを行った。その上で、この調査の倫理審査を受審した。また、調査の一部を委託する業者との契約手続きについて検討を進め、2020年度に実施した。その結果を、これまでの研究で得られた知見を踏まえて分析し、考察した。それらの成果を内外の学会で発表する準備を進め、演題として応募するとともに、英文論文として投稿する準備を進めた。

2019年11月に生じた研究代表者の健康問題により、それまで予定していた大規模調査の立案作業が困難となり研究を中断したため、研究倫理審査の受審及び委託業者との契約をすることができなかった。この事態への対応として、研究機関の延長を申請し承認され、大規模調査の立案と実施および調査結果の分析と成果発表の準備を行った。

### (5) 過去の調査研究結果の分析

この研究活動の基盤となった、過年度に実施した進学校の進路指導担当教員を対象に行った調査

研究の結果について、さらに分析と検討を進め、学会発表(49th Annual Meeting of the JSME 2017 年, 第 50 回日本医学教育学会大会 2018 年)を行うと共に、英文論文として国際学術雑誌に投稿した。

#### (6) マスメディア記事の調査

医学部入試に関する特集記事を継続的に掲載している週刊誌の記事が、重要な情報源になることから、1995 年以降の記事について検索を行い、その動向を分析し、学会発表(第 50 回日本医学教育学会大会 2018 年)を行った。

#### (7) 海外調査

医学部入試の改革に先駆的に取り組んでいることで知られる英国やカナダの最新の情報を収集する目的で、研究分担者の渡辺と柴原(柴原は 2019 年度から研究協力者)が訪問調査を行い、論文(創成ジャーナル Human and Society 2019,2020, いのちとくらし 2021)として発表した。

#### (8) 英国の報告書の翻訳

医学部入試の改革に先駆的に取り組んでいることで知られる英国の状況を参考にするための資料の一つとして、その改革の契機となった報告書(Unleashing Aspiration: The final report of the panel on fair access to the professions 2009)を入手し日本語に翻訳した。

#### (9) 医学部生向け授業の開発

医学部医学科入試の激化に伴い、受験学力を習得するための学習と、医学部入学後の学習の間をつなぐための授業が重要になっていることに着目し、入学後の学生が、それまでの受験学力を習得するための学習から自己主導型学習に円滑に移行し、医師となるキャリアを意識することを促す授業の開発と試行的な実践を進めるとともに、その内容を論文発表した(医学生のための自己主導型学習、奈良医学雑誌 2018)。

#### (10) 研究成果の公開

参考資料や学会発表の内容など、研究の成果を公開するためのホームページを整備した。

### 4. 研究成果

#### (1) 大規模調査

「医学部医学科の入学試験とその関連事項に関する意識調査」

[調査対象]

全国15～79歳の男女個人 1,200 人回収

[抽出方法]

住宅地図データベースから世帯を抽出し、個人を割り当て

[標本数の配分]

200地点(1地点6サンプル)を、地域・市郡規模別の各層に比例配分した

[調査方法]

契約調査員による、質問紙を使った個別訪問留置き調査。

第 578 回 NOS(日本リサーチセンター・オムニバス・サーベイ/乗り合い形式の全国訪問留置調査)として実施。

[調査期間]

2020年11月27日(金)～12月9日(水)

[結果の概要]

医学部入試についての理解

医学部の入試制度に対する認識は、「経済的に余裕がないために医学部受験をあきらめる人がいる」「学力試験が重視されている」「経済的に恵まれた環境で生まれ育った人が有利である」「塾や予備校などで特別な受験対策をした人が有利である」など、経済力や受験対策の機会の格差からくる不公平感を想起させる項目が多くあがった。

医学部入学者の成育環境

医学部入学者の成育環境については、「身近に医療関係者がいる」「経済的に恵まれた環境で生まれ育った」「受験勉強をやりやすい環境で生まれ育った」などが多く、経済力があり受験に適した環境に生まれ育った者が医学部に入学すると考える人が多い傾向が見られた。

将来医師になる人の資質として重要な点

医師となる人の資質として重要な点は、「状況を的確に判断できる」「思いやりがある」「医療や福祉の実際を理解している」「精神的ストレスに強い」「弱い立場の人に配慮できる」などの項目が上位にあがった。医師の素質として上記のような精神力の強さや他者への思いやりや共感力の高さなどが、受験時の偏差値や本人が過去にどのような経験を積んだかという点よりも重視される結果となった。

「地域枠」制度について

地域枠の制度の認知率は、全体の約 1 割(12.3%)、医療従事者・医療系学生は約 3 割(32.2%)だった。地域枠については「医師不足を解消できるのであれば異なる基準で入学できることに問題はない」

は約 4 割が「そう思う」(「大いにそう思う」～「ややそう思う」の合計)と回答した。

### (2) 過去の調査研究結果の分析

“Factors influencing application to medical schools in Japan: High school guidance counselors’ perception of the issue”

Kikuko Taketomi, Junji Otaki, et.al.

第 49 回日本医学教育学会大会(International session),2017 年

[Conclusion]

Economic and regional disparities among high school students in Japan influence students’ decisions to go on to medical schools. Many high school guidance counselors reported that wealthy, urban students had a clear advantage over others. The influence of educational disparities should be more effectively clarified.

“Size of city, type of school, and application to medical schools in Japan: From a nationwide survey of high school guidance counselors”

Junji Otaki, et.al.

15th Asia Pacific Medical Education Conference(国際学会), 2017 年

[Conclusion]

The proportions of high schools that many graduates enter medical schools vary in accordance with sizes of cities and types of high school. These results suggest that economic and regional disparities among high school students in Japan influence students’ decisions to go on to medical schools. The influence of educational disparities should be more effectively clarified.

### (3) マスメディア記事の調査

「一週刊誌に掲載された医学部入試に関する記事の分析」

大滝純司, 他

第 49 回日本医学教育学会大会, 2017 年

[目的]

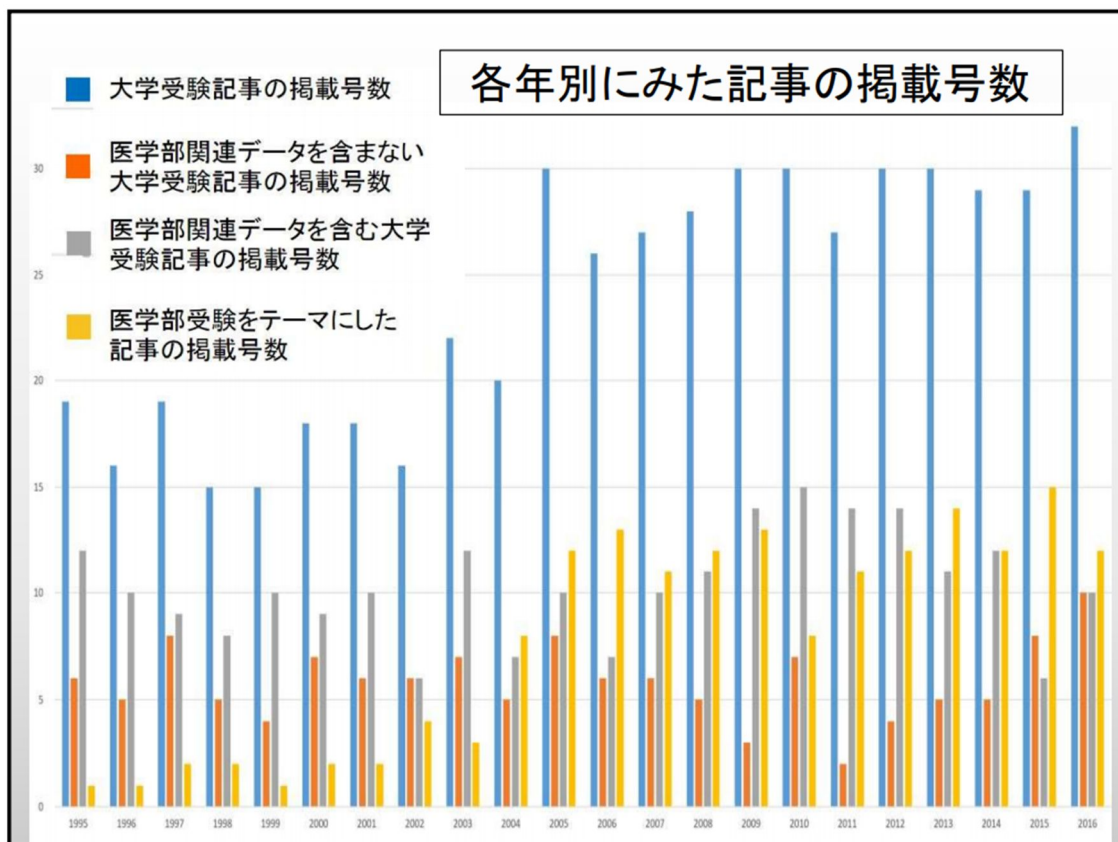
我々は、医学部医学科の入学者選抜(医学部入試)の妥当性について多角的に検討する研究の一環として、医学部入試のメディア動向を明らかにする目的で、大学入試に関する記事を多く掲載している週刊誌(S 誌)の記事について検討した。

[方法]

S 誌に 1995～2016 年に掲載された大学入試に関する記事を検索した。

そこから医学部入試に関する記事や情報を抽出し、時系列的に集計し、内容を分析した。

[結果]





大学入試に関する記事を掲載した号の総数は526、そのうち医学部入試を主なテーマにした記事(医学部入試記事)を掲載した号は171であった。1995年から2003年までは医学部入試記事を掲載した号は毎年4以下であったが、2004年からは8~15と増加していた。一般的な大学入試が主なテーマで、その一部に医学部関連の情報を含む記事、および医学部関連の情報を含まない記事を掲載した号はそれぞれ227と128あり、年度による明らかな増加傾向はみられなかった。医学部記事の主な内容は、医学部入試の大学別難易度、医学部志望の動向、学費や地域枠の影響、医学部入試合格者の出身高校別の人数、などであった。特に医学部入試の高校別合格者数に関する記事は、2003年までは東京大理科3類や京都大医学部など一部の大学に限られていたが、2004年からは全ての国公立大と一部の私立大の情報が「高校別ランキング」などのタイトルで毎年掲載されていた。

[考察]

大学入試に関する週刊誌の記事に占める医学部入試の割合は増加しており、特に2004年以降は特集が組まれるようになってきている。またその内容は、いわゆる進学校を中心とした出身高校別の医学部入試合格者数に比重が置かれており、入学者選抜方法の妥当性に関する記事は少なかった。これらは、医学部入試の実態を理解するに当たって有効な示唆となりうると考える。

#### (4) 海外調査

「医学部入試と医学教育の関連を考える：カナダ・マクマスター大学入学者の属性から」

渡邊洋子：創生ジャーナル Human and Society 2, 123-130, 2019

「医学部入試と医学教育、生涯キャリアをつなぐ初年次教育：カナダ・マクマスター大学の事例から」

渡邊洋子：創生ジャーナル human and society 3, 85-105, 2020

#### (5) 英国の報告書の紹介と翻訳

Unleashing Aspiration: The final report of the panel on fair access to the professions 2009

<https://www.voced.edu.au/content/ngv%3A37875>(日本語版著作権交渉中)

#### (6) 医学部生向け授業の開発

「医学生のための自己主導型学習-医学部入試と初年次教育を架橋するために」

渡邊洋子，他：奈良医学雑誌 69(1),27-42, 2018

<http://ginmu.naramed-u.ac.jp/dspace/bitstream/10564/3512/1/27-42p..pdf>

#### (7) 研究成果の公開

資料や学会発表などをホームページ(<http://square.umin.ac.jp/a2ms/index.html>)で公開している。

A2MS : Admission to Medical School  
**医学科入試の妥当性を考える**

日本語 English

HOME 研究プロジェクトの概要 シンポジウムの報告 学会発表の記録 関連資料の紹介



戦禍で荒れたカブール医科大学の教室(2003年,アフガニスタン)

**現代の日本における医学部医学科入試の妥当性を多角的に検討し、今後のあるべき姿を探る**

- 研究プロジェクトの概要：この研究の目的や経緯の説明です。
- シンポジウムの報告：2013年に国際シンポジウムを開催しました。
- 学会発表の記録：各種の学術集会で研究成果を発表しました。
- 関連資料の紹介：参考になる資料のリストです。

お知らせ

○ 2021年3月10日 ウェブサイトを再開設しました。 **NEW**

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 6件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 渡邊洋子, 柴原真知子, 大滝純司	4. 巻 1
2. 論文標題 医学部入試と初年次教育を考える	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 創生ジャーナルHuman and Society	6. 最初と最後の頁 85-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 渡邊洋子, 藤本眞一, 柴原真知子, 大滝純司	4. 巻 69
2. 論文標題 医学生のための自己主導型学習	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 奈良医学雑誌	6. 最初と最後の頁 27-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Otaki Junji	4. 巻 105
2. 論文標題 IV. Revising the Curriculum for Medical Education: Backgrounds and Notable Points	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Nihon Naika Gakkai Zasshi	6. 最初と最後の頁 2346 ~ 2352
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2169/naika.105.2346	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 柴原真知子	4. 巻 40
2. 論文標題 イギリス卒前医学教育政策における教育概念の通時的分析：1990年代から2010年代	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 いのちとくらし	6. 最初と最後の頁 40 ~ 52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 渡邊洋子	4. 巻 2
2. 論文標題 医学部入試と医学教育の関連を考える : カナダ・マクマスター大学入学者の属性から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 創成ジャーナルHuman and Society	6. 最初と最後の頁 123-130
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 渡邊洋子	4. 巻 3
2. 論文標題 医学部入試と医学教育、生涯キャリアをつなぐ初年次教育: カナダ・マクマスター大学の事例から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 創成ジャーナルHuman and Society	6. 最初と最後の頁 85-105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計5件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 大滝純司
2. 発表標題 入学者選抜の妥当性と教育格差に関する考察
3. 学会等名 第50回日本医学教育学会大会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Taketomi K, Ito YM, Nagata-Kobayashi S, Otaki J
2. 発表標題 Factors influencing application to medical schools in Japan: High school guidance counselors' perception of the issue
3. 学会等名 第49回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大滝純司, 柴原真知子, 柿本明日香, 武富貴久子, 渡邊洋子
2. 発表標題 一週刊誌に掲載された医学部入試に関する記事の分析
3. 学会等名 第49回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Otaki J, Taketomi K, Ito YM, Nagata-Kobayashi S
2. 発表標題 Size of city, type of school, and applications to medical schools in Japan: Findings from a nationwide survey of high school guidance counselors
3. 学会等名 15th Asia Pacific Medical Education Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大滝純司
2. 発表標題 変化する医学教育
3. 学会等名 日本麻酔科学会第6回北海道・東北支部学術集会(招待講演)
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 大滝純司	4. 発行年 2016年
2. 出版社 医歯薬出版株式会社	5. 総ページ数 103
3. 書名 医学教育の現在：医学部入学者選抜	

〔産業財産権〕



〔その他〕

公開用ホームページ：  
 A2MS : Admission to Medical School  
 医学科入試の妥当性を考える  
 Considering the validity of medical school entrance examination  
 URL: <http://square.umin.ac.jp/a2ms/index.html>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	渡邊 洋子  (Watanabe Yoko)  (70222411)	新潟大学・人文社会科学系・教授    (13101)	
研究分担者	三苦 博  (Mitoma Hiroshi)  (20453730)	東京医科大学・医学部・主任教授    (32645)	
研究分担者	柴原 真知子  (Shibahara Machiko)  (40625068)	京都大学・医学研究科・特定助教    (14301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関